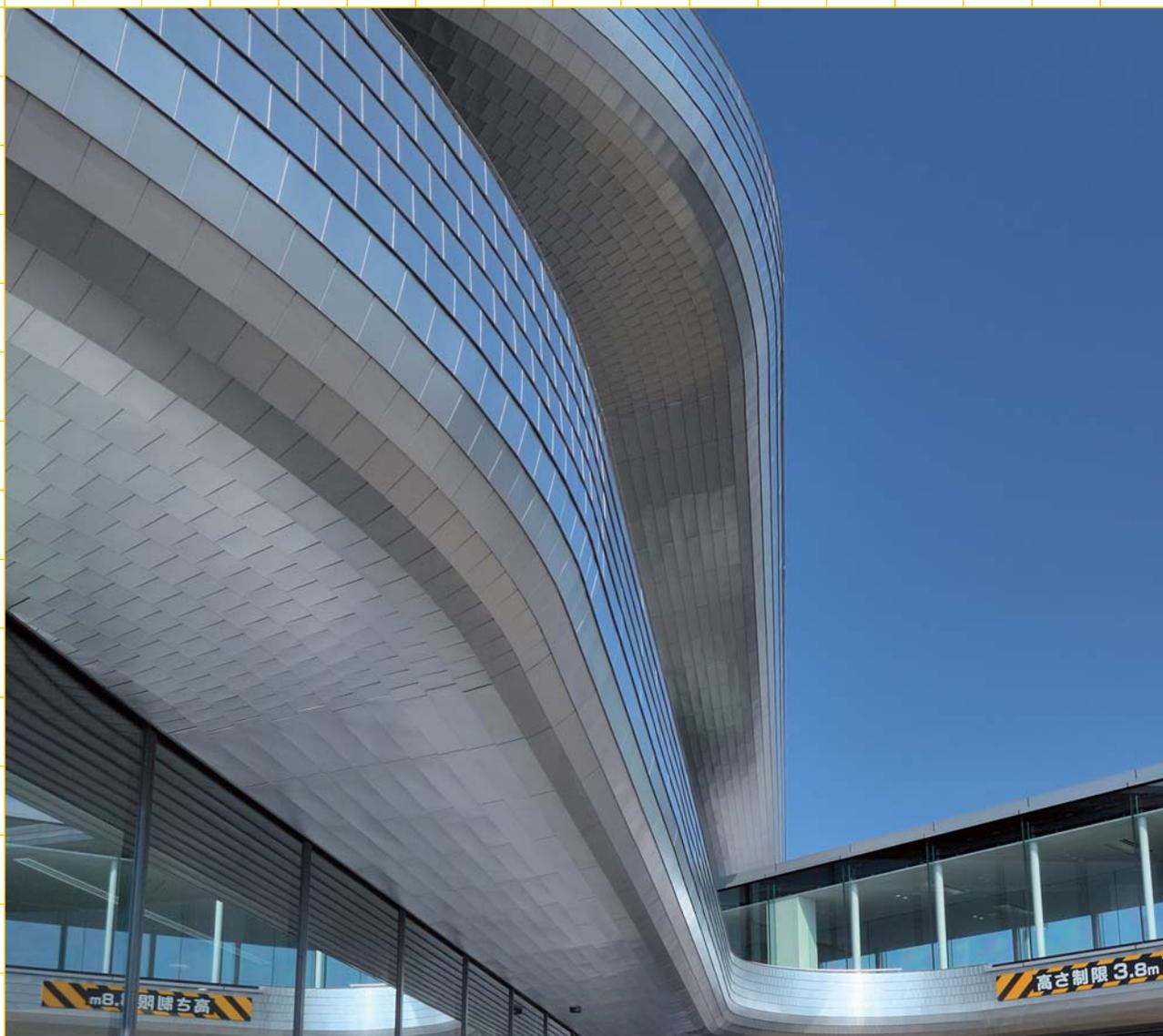


Sanko

2017

No. 3 1 3



表紙

成田PTB 50番60番固定ゲート

名建築

函館総合車両基地

Sanko
Archi Spot

関東・東海・北陸特集

対談

屋根を巡って — 大高正人の仕事



三晃金属工業株式会社

北海道新幹線の安全・快適な運行をサポートする 函館総合車両基地



(写真提供/横新津写真)

【語る人】



函館総合車両基地工事
作業交番検査庫他所長
鹿島建設(株)

難波 勝氏



函館総合車両基地工事
車体塗装場他所長
鹿島建設(株)

島村 忠治氏

■36万㎡に31棟の建屋

昨年3月に開業した北海道新幹線。その運行をサポートするためにつくられたのが函館総合車両基地です。新幹線と在来線に囲まれた扇状の敷地は東京ドーム7.5個分にあたる約36万㎡あり、そこに大小31の建物

が整備されています。総合管理棟や定期的な検査・修繕を行うための検修施設、台車等の重要部品の解体検査・修繕を行う工場施設や線路・電気設備の保守を担う保守基地などなど。新幹線車両の日常的なメンテナンスから大規模な検査・修理までを行うこ

とができる当施設は、全国では5番目に当たり、北海道では唯一の総合車両基地です。

■工事のすべてが桁違いのスケール

そもそもこの広大な敷地には農地が広がっていました。北海道特有の『泥炭』の処理に悩まされながら4年半をかけて地盤改良と造成が行われ、建築工事が始まったのは2012年3月。その後札幌延伸が決定し、基地全体の計画が大幅に見直されることになり、本格着工は予定より半年余り遅れた同年7月でした。さらに設計が概ね固まったのは着工から10ヶ月後。出来るところから進めていましたが、この間は先が見えず、もっとも辛い時期でした。

工事が始まってみると、通常とはすべてにおいて規模が異なっていました。35万㎡という敷地の広さは、毎日パトロールのために1周するだけで2時間は優にかかります。三晃金属さんがエックスロンで施工された屋根だけでも総面積は6万㎡を超えて



(写真提供/株式会社新津写真)

いますし、鉄骨は約17000トと膨大な数量になりました。

■作業調整が鍵

31棟も建屋があるため、工事が途切れることがなく、杭打ちをしている傍らで塗装仕上げをしていることも珍しくありませんでした。ある建屋では、杭、鉄骨、内装、塗装と建築全業者が入り乱れて工事をするということもあり、最盛期には関係する一次事業者は50社を超え、1日350人が作業をしていました。

次々と建ちあがってゆく建物は、それぞれ役目が異なります。それをきちんと伝え、共通認識をもつことも大切でした。そのため、業者間での打ち合わせを毎日行い、各種工事間で垣根のない協力体制を構築することに努めました。また鉄道関連施設では軌道・電気・機械などの作業が混在するため、建物周辺も含めた施工順序の調整が全体工期に影響します。特に開業が近づいた

時期は、多くの建物が建ちあがる中を試運転の車両が入ってくることになり、資材を置く場所やクレーンの使用などにも規制が加えられるなど、鉄道施設ならではの苦労もありました。

さらに、当然、雪との闘いも工事の進捗に大きな影響を与えます。豪雪の年もあり、雪下ろしだけで半日が過ぎることもありました。加えて現場は海に近い上に、まわりに遮るものがないため強い風が吹き、安全対策には特に気がつかいました。

工事期間中、常に心がけたのは、全体を見据えて工程をコントロールすることでした。4年半にわたる長丁場だっただけに、様々な苦難を乗り越え、開業を迎えることができた時は、感慨も一入でした。

■1日も早い札幌延伸を願って

最初に施工した建屋ではすでに3年を経過。冬を2度経験しています。北海道の雪は積もるだけでなく凍結するため、屋根の

左上から/
全般検査・台車検査場
仕業交番検査庫
着発収容庫

エクスロン防水の屋根だけでなく
一部壁も折版で施工

不具合が一番心配されましたが、これまでそうしたトラブルもなく推移しています。駅舎とは違い、脚光を浴びることがない建物です。しかし車両基地は新幹線の、安全で快適な運行をサポートする重要な施設です。その工事に参画できたことを大変誇りに思っています。そして、札幌延伸が1日も早く進むことを願っています。

建築概要

- 所在地…北海道七飯町、北斗市
- 事業主体…独立法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構
- 敷地面積…約35万㎡
- 建築面積…約80,000㎡
- 構造…S・RC造 1F一部2F、4F 仕業交番検査庫、車体研修場、車体塗装場など31棟
- 屋根仕様…エクスロン防水 エクスロン鋼板
t=0.4mm 68,109㎡
丸馳II型 カラーガルバリウム鋼板
t=0.8mm 1,883㎡
- 壁仕様…折版 W-500 カラーガルバリウム鋼板
t=0.6mm 5,966㎡
- 施工…鹿島建設(株) 北海道支店 JV
- 竣工…2016年3月

Sanko Archi Spot

表紙



成田PTB 50番60番固定ゲート (千葉県成田市)

●屋根仕様/美段ルーフ9 フェライト系ステンレス鋼板 (NSSC220M) t=0.4mm 7,672㎡ サンコーフラットI型 フッ素樹脂ガルバリウム鋼板 t=0.8mm 2,748㎡ 軒天 ハイシャドー フェライト系ステンレス鋼板 (NSSC220M) t=0.8mm 1,904㎡ ●設計/株式会社日建設計・株式会社梓設計 ●施工/清水建設(株)



首都高速道路
高速神奈川7号横浜北線
新横浜換気所
(神奈川県横浜市)

●屋根仕様/美段ルーフ9 フェライト系ステンレス鋼板 (NSS445M2) t=0.4mm 984㎡ ●設計/株式会社日建設計 ●施工/大成建設(株)



草加市役所 第二庁舎
(埼玉県草加市)

●外壁仕様/美段ルーフ35 フッ素樹脂ガルバリウム鋼板 t=0.5mm 680㎡ ●設計/株式会社日建設計 ●施工/北野・ムサシJV



駒沢オリンピック公園総合運動場 (26) 弓道場改築 (東京都世田谷区)

●屋根仕様/立馳SX-40 カラーガルバリウム鋼板 t=0.6mm 1,368㎡ ●外壁仕様/サイディングハイシャドー カラーガルバリウム鋼板 t=0.6mm 392㎡ サイディングS カラーガルバリウム鋼板 t=0.6mm 366㎡ ●設計/株式会社相和技術研究所 ●施工/株式会社徳祥



ビーブライウンエスクラップ(株)栃木工場 (栃木県栃木市)

●屋根仕様/ダブルバック工法 上弦材:丸馳折版I型 ガルバリウム鋼板 t=0.8mm 4,813㎡ 下弦材:丸馳折版I型 ガルバリウム鋼板 t=0.6mm 4,813㎡ ●設計・施工/東洋建設(株) ※FM物件

(仮称) 星ヶ台保育園
(岐阜県多治見市)

●屋根仕様／SX-40(キャップレス・片流れ テーパー加工) カラーガルバリウム鋼板 t=0.4mm 1,360㎡ ●設計／(株)日総建 ●施工／(株)新興建設



金沢市城都市民運動公園
屋内プール (石川県金沢市)

【メインプール】 ●屋根仕様／立馳E-20 カラーガルバリウム鋼板 t=0.4mm 6,362㎡ 【サブプール】 ●屋根仕様／瓦棒F-40-K カラーガルバリウム鋼板 t=0.4mm 1,180㎡ ●設計／(株)梓設計 ●施工／清水・大鉄・豊蔵・双建JV



新東海製紙(株)チップサイロ再建工事 (静岡県島田市)

●屋根仕様／ルーフデッキ ガルバリウム鋼板 t=0.6mm 6,975㎡ ●外壁仕様／サイディングS カラーガルバリウム鋼板 t=0.5mm 3,085㎡ ●設計／大成建設(株)一級建築士事務所 ●施工／大成建設(株)名古屋支店



豊田市寺部小学校・寺部こども園改築 (愛知県豊田市)

●屋根仕様／美段ルーフ9 フッ素樹脂ガルバリウム鋼板 t=0.5mm 4,518㎡ 立馳E-20 フッ素樹脂ガルバリウム鋼板 t=0.4mm 1,083㎡ ●外壁仕様／美段ルーフ9 フッ素樹脂ガルバリウム鋼板 t=0.5mm 725㎡ ●設計／(株)青島設計 ●施工／太啓建設(株)

Sanko Archi Spot



(仮称) 濃飛西濃運輸富加物流センター太陽光発電工事 (岐阜県加茂郡)
 ●屋根仕様/瓦棒F-40-K (ハイタフの上カバー改修) フッ素樹脂ガルバリウム鋼板 t=0.4mm 17,960㎡ ソーラーシステムSフィット (kW) ●設計・施工/㈱ミライト



平手みよ子様事務所 (愛知県犬山市)
 ●屋根仕様/ハイタフルーフィングシステム EP t=1.14mm 205㎡ ●設計/㈱ヒラテ技研 ●施工/名稲建設(株)



美濃市立美濃病院外来棟及び健診棟増築 (岐阜県美濃市)
 【外来棟】●屋根仕様/立馳スピードロック フッ素樹脂ガルバリウム鋼板 t=0.5mm 681㎡ 【検診棟】立馳スピードロック フッ素樹脂ガルバリウム鋼板 t=0.5mm 121㎡ ●設計/㈱デザインボックス ●施工/青協・西村JV



ドリームリフター・オペレーションズ・センター (DOC2) (愛知県常滑市)
 ●屋根仕様/丸馳折版Ⅱ型 フッ素樹脂ガルバリウム鋼板 t=0.8mm 2,013㎡ 折版W-500 フッ素樹脂ガルバリウム鋼板 t=0.8mm 196㎡ ●外壁仕様/折版F-200Ⅱ型 フッ素樹脂ガルバリウム鋼板 t=0.8mm 1,594㎡ サイディングS フッ素樹脂ガルバリウム鋼板 t=0.5mm 32㎡ ●設計・施工/東急建設(株)



(仮称) イトマンスイミングスクール東京強化校 (東京都多摩市)
 ●屋根仕様/ダブルバック工法 上弦材:丸馳折版Ⅱ型 カラーガルバリウム鋼板 t=0.8mm 2,010㎡ 下弦材:丸馳折版Ⅱ型 ハイレタンSGL t=0.8mm 2,010㎡ ハイタフルーフィングシステムEP t=1.14mm 141㎡ ●設計/㈱梓設計 ●施工/大和ハウス工業(株) ※無溶接タイトフレーム採用物件



桐蔭横浜大学 体育館 (神奈川県横浜市)
 【アリーナ棟】●屋根仕様/立馳SX-40 フッ素樹脂ガルバリウム鋼板 t=0.5mm 1,198㎡ ●外壁仕様/インバンドPro フッ素樹脂ガルバリウム鋼板 t=50mm 303㎡ 【柔道場】●屋根仕様/立馳SX-40 フッ素樹脂ガルバリウム鋼板 t=0.5mm 561㎡ ●外壁仕様/インバンドPro フッ素樹脂ガルバリウム鋼板 t=50mm 120㎡ ●設計/清水建設(株)一級建築士事務所 ●施工/清水建設(株)



南部特別支援学校（仮称）高等部（岐阜県羽島市）

【校舎棟】●屋根仕様／SX-40（キャブレス アーチ屋根）フッ素樹脂ガルバリウム鋼板 t=0.5mm 1,059㎡ 【体育館棟】●屋根仕様／SX-40（キャブレス アーチ屋根）フッ素樹脂ガルバリウム鋼板 t=0.5mm 990㎡ ●設計／塚原・金華JV ●施工／TSUCHIYA・田中・大洞JV
 【管理教室等】●屋根仕様／SX-40（キャブレス アーチ屋根）フッ素樹脂ガルバリウム鋼板 t=0.5mm 989㎡ ●設計／塚原・金華JV ●施工／内藤・上村JV

**SANKO
営業所
紹介**

**三重営業所
（三重県津市）**

三浦 哲所長／南北に細長い三重県の名古屋に近いエリアは中京工業地帯の一角を担っています。主要企業の工場や物流の拠点も多く、受注する工事の大半は大手ゼネコンさん経由の大型案件です。また当営業所では代々改修に力を入れてきた伝統があり、現在も改修のウエイトは高い状態で推移しています。今後はこれまでのお取引先との関係強化はもとより、地元の設計事務所への営業にも力を入れ、我が社ならではの仕事をしたいと思っています。



右から齋藤建悟、角本秀太、三浦所長、國松拓真、高野 茜、左上は応援の荻原 駿（北陸営業所）



㈱LIXIL近畿物流センター（三重県津市）

●屋根仕様／ハイタフルーフィングシステム（カバー改修）EP t=1.14mm 78,281㎡ ●設計／㈱LIXIL ●施工／三晃金属工業㈱

住宅用サッシの物流倉庫で、8万㎡近い広さの屋根の改修をハイタフルーフィングシステムで施工しました。最初の折版屋根を18年程前の増改築の際に、改修・新築したものの再改修です。LIXILさんでは全国の工場や倉庫でも同様の方法で改修を進めています。ご覧の通り、見渡す限りまぶしい白の世界。夏の施工時には照り返しもあってヘルメットのベルトのあとがくっきり残るほどまっ黒に日焼けしました。



**児童養護施設真盛学園
（三重県津市）**

●屋根仕様／立馳E-20（テーパ加工）カラーガルバリウム鋼板 t=0.4mm 203㎡ 立馳E-20 カラーガルバリウム鋼板 t=0.4mm 798㎡ 美段ルーフ9 カラーガルバリウム鋼板 t=0.4mm 34㎡
 ●設計／日新設計㈱
 ●施工／安濃建設㈱

地元の設計事務所とゼネコンさんによる案件で、老朽化した旧園舎に替わって建てられました。様々な事情を抱えた子ども達が心と体を癒す`家`として設計されています。もっとも苦労したところはシンボリックな存在のとんがり屋根の部分です。テーパ加工で施工していますが、線がきちっと合うように気をつかいました。

山口大学工学部感性デザイン工学科 教授 藤田 正則

〈第5回〉鋼構造の資源循環

1. はじめに

建物は、その建設段階で膨大な量の資源を使用しており、鋼構造建物も同様である。高炉鋼材における製造には、鉄鉱石、石炭、石灰石などの資源を必要とする。鋼材はリサイクル技術が確立されており、各種スクラップの配合と成分調整により概ねバージン材に劣らない品質も製造できるに至っている。しかしながら、スクラップの手間やスクラップ価格の変動などの資源循環を妨げる課題も生じている。

本稿では、鋼構造の地球環境問題への対応を念頭に、鋼構造の資源循環について言及する。

2. 資源

資源の可採年数は、現時点での確認可採埋蔵量を年間生産量で割った値で定義され、化石燃料においては、以降、石油40.6年、石炭164年、天然ガス66.7年で枯渇するとしている¹⁾ (図1(a)~(c))。また、鉱物資源においては、鉄鉱石70年、鉛20年、銅35年とされており、その多くが100年を下回っている (図1(d))。資源の可採年数は新たな発見・確認などにより変動するため、必ずしも資源の消滅を意味するものではないが、いずれにしても鉱物資源や化石燃料の資源は有限であり、資源枯渇の観点から建物の建設時に使用する鋼やコンクリートなどの建築材料においても資源の消費を抑制する必要がある。

3. 鉄鋼循環

鋼は前述したように建築、土木、造船・機械、自動車等の産業分野で大量に消費されており、リサイクルの資源循環が成立し

ている材料である。すなわち、鉄鉱石を主とする製造法 (高炉) と鉄スクラップを主とする製造法 (電気炉) が共存し、循環社会システムが構築されている。(社)日本鉄鋼連盟が作成した日本における鉄鋼資源循環図 (2014年度) を図2に示す²⁾。鉄鋼生産 (高炉) は8390万トンであり、鉄鉱石1億3681万トン、原料炭5905万トンが使用されている。これらの資源をもとに製造された粗鋼生産量は1億984万トン (転炉: 76%、電炉24%) であり、そのうち普通鋼鋼材としての消費量は4641万トンである。普通鋼鋼材は、建築分野において1484万トン (32%) と最も多く使用されている。

粗鋼は高炉で生産された銑鉄と鉄スクラップを合わせて鉄源と称して転炉または電炉により製造される。鉄源消費の1億2594万トンのうち、34%が国内鉄スクラップ

により賄われている。国内の鉄スクラップの内訳は、高炉の処理過程で生じる自家発生スクラップ (30%)、鉄骨加工者などが製品を加工する際に生じる加工スクラップ (18%)、製品が建物に使用され、社会で供用されたのちに回収される老廃スクラップ (52%) となっている。

4. おわりに

鋼材はリサイクルとしての循環社会システムが確立されているものの、その製造に使用される資源は有限である。今後、鋼構造の特徴を生かした、一歩進んだ鋼構造の資源循環が期待される。

参考文献

- 1) 経済産業省「エネルギー資源の確認可採埋蔵量」[BP統計2006] OECD/NEA & IAEA「URANIUM2003」
- 2) 一般社団法人鉄源協会、鉄鋼スラグ協会「鉄鋼統計要覧」

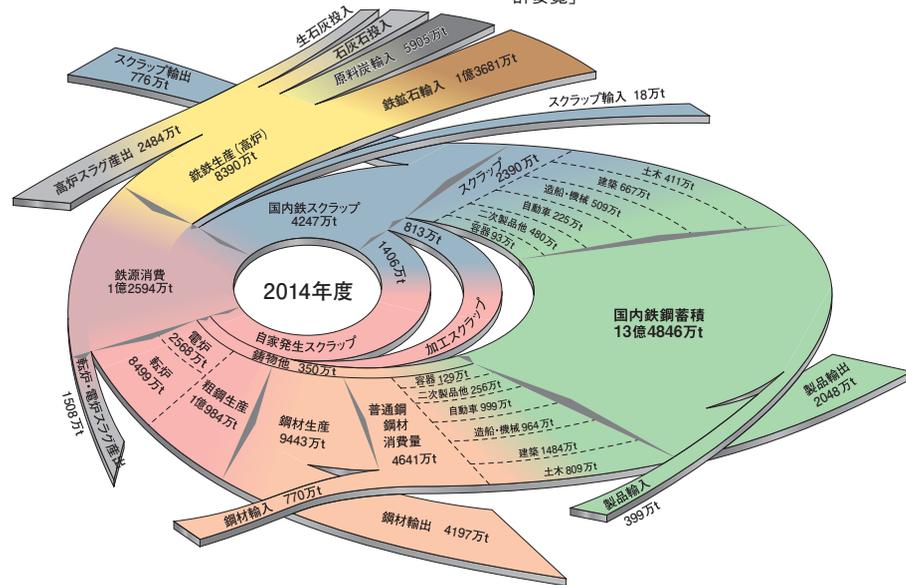


図2 日本の鉄鋼循環図 (2014年度) 出典: 日本鉄鋼連盟

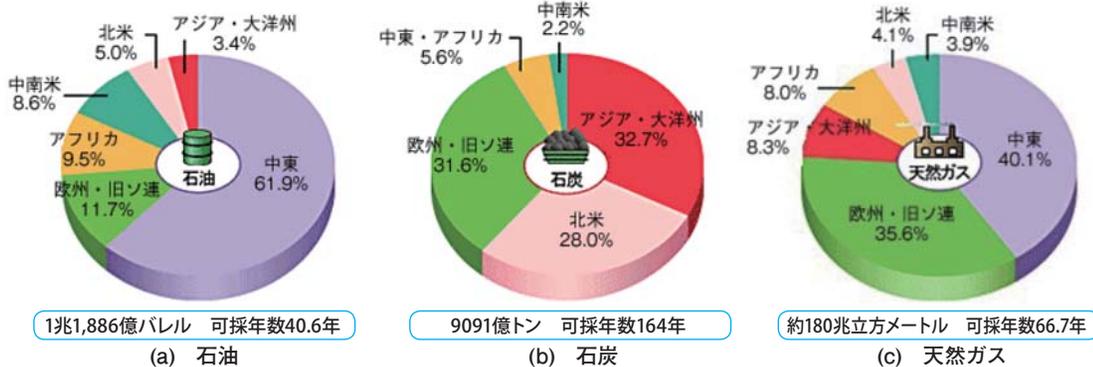


図1 資源と確認可採埋蔵量

屋根を巡って — 大高正人の仕事



奥が群馬県立歴史博物館。隣の白い建物は磯崎新設計の群馬県立近代美術館



千葉県立美術館。屋外には広い芝生の展示スペースが設けられている



建築家
東京大学名誉教授

内藤 廣氏



京都工芸繊維大学
教授

松隈 洋氏

「フラットルーフを追放せよ」「われわれの屋根を発見することによって、われわれの建築と都市を墮落から救おう！」— かつてこう呼びかけた建築家がありました。大高正人（1923—2010）。戦後の建築界を牽引した建築家の一人です。1962年に前川國男（1905—86）の下から独立して大高建築設計事務所を設立し、おおそ半世紀にわたり、建築家として幅広く活躍しました。設計を手がけた建物は、竣工したものだけでも150件にのぼるといいます。その中に、冒頭の言葉通り、傾斜屋根をもつ一連の建築群も含まれています。そして現代日本の建築界を代表する建築家の一人である内藤廣氏もまた、端正な勾配屋根が印象に残る建物を多く設計されています。昨年から今年にかけて大高正人の大規模な展覧会が開催され、注目の集まる今、内藤廣氏と大高正人展の企画実行の責任者を務めた京都工芸繊維大学の松隈洋氏に、屋根を巡る話を皮切りに大高正人の魅力を語っていただきました。

●「性能」と「共同幻想」

松隈 内藤さんと大高さんの出会いは鳥根県益田市の《鳥根県芸術文化センター》（2005年）の建設計画からですか。大高さんがプロポーザルの審査委員長でしたね。

内藤 その5年くらい前にMM21（横浜みなとみらい21）のプレゼンで会ってるかも知れ

ない。コンペのあとは、委員長だった大高さんに、要所要所で報告に行きました。益田の件では、大通りから1本入った裏通りが、生活道路になっていて、その線をまっすぐひいて建物に当ててくれないかって、それだけでしたね、注文は。

松隈 でもかなり決定的な助言ですよ。

内藤 やはり軸線にこだわる。大高さんは。

松隈 素材とかについては何か？

内藤 一切なかった。ありがたかったですよ。まあ後見人みたいな存在でしたね。

松隈 大高さんとは亡くなるまでの10年ほどのおつきあいなんですね。内藤さんが設計された《鳥根県芸術文化センター》は石州瓦の大屋根が架けられていますが、他にも《海の博物館》や《牧野富太郎記念館》でも屋根が印象的です。大高さんも《千葉県立美術館》や《群馬県立歴史博物館》などを通して傾斜屋根の造形を試みています。お二人とも屋根にこだわりがありますね。

内藤 時代遅れだからね。（笑）二川幸夫さんからも言われた。「今頃、屋根なんかやってるヤツいないぞ」って。まあ一人ぐらい変わり者がいてもいいかなって。（笑）

松隈 内藤さんの屋根への関心の原点はどこにあるのですか？

内藤 しいて言えば、僕のスペインのボス、フェルナンド・イゲラスの影響があるかもしれない。彼の事務所で働き始めた頃は、国内情勢が悪くて、あまり仕事がなかった。それで来る日も来る日もスペインの集落を空撮した分厚い本をめくっては、それぞれの地域の気候風土や、それに対応した屋根形状の必然性をフェルナンドが僕に何度も説明してくれた。南部のアンダルシアはほとんど雨が降らないので、フラットルーフが多いとか、北部のガルシア地方は1年のうちの7割ほどが雨な

ので屋根を出して庇を深くする、それでこういう街並みが成り立ってるとか。そんな話に影響を受けたんだと思う。気候に対してローコストで的確に答えを出そうとすると、地域によって対応にバラツキが出てくる。それがその地域の個性になっていく。しかし今は、気候に対処する仕方はお金の有る無しで変わってくる。技術の変化もある。だから多分、100年前と現代とでは、屋根を選ぶ意味が違ってきている気がする。どんな形でも成り立つ今の世の中で、屋根の形を求めれば、シート防水の方がいい場合もあると思うし、実際僕もフラットルーフを使うこともある。

松隈 大高さんの傾斜屋根も日本の気候風土や伝統を活かした近代建築の姿を追求しようとして生まれたもので、屋根と言っても昔のものをそのままではなく、自分たちの新しい時代の屋根をつくりたいという意識がすごく強かった。だから素材や耐久性や質感とか、かなり試してる感じですよ。

内藤 大高さんはこだわってましたよ。《群馬県立歴史博物館》でアルミの抜き型で瓦棒つくってサッシみたいな納まりでやっただけ。すばらしいなって思った記憶がある。雨を漏らさないために、そういう考え方があるのかと。まねしようと思って何回もやるんだけど、なかなか上手くいかない。（笑）

松隈 《三春町歴史民俗資料館》は錆が出て塗り直していましたが、谷のところの漏水とかもあって、簡単にはいかなかったようです。でも同じことはやらない。さまざまな挑戦をしていましたね。その一方で、法隆寺などをみても、ものすごく長い時間の中で鍛えられた技術です。大高さんは、それらに対する畏敬というか、なんであいうものに比べて今のもの（技術）は駄目なんだという意識は強かったのだと思います。



群馬県立歴史博物館の正面



外壁に地元・藤岡産の黒瓦。屋根はアルミ型材による瓦棒葺き



天井の高い展示スペース

内藤 そうでしょうね。石州瓦なんて300年くらいあまんなんですよ。金属屋根は何年ですか？石州瓦はノスタルジーとしてではなくて技術として優れている。石州瓦に耐久性があったから石見銀山も残ったと言う人もいます。つまり体内時計が違う、素材自体の。そういう素材であれば、その中で可能な表現を考えたい。つまり、どの時間に自分のつくる建物を属させたいかによって素材も施工法も変わる。100年を超える時間に属させようと思ったら、そういう素材を選びたい。少なくとも僕は、100年単位で時代を貫く精神を表現するのが建築本来の使命なんじゃないかと思ってるから100年くらいは生き延びられる屋根をつくりたい。

松隈 前川國男が最後に言ったのは「建築をつくる素材はできるだけ平凡なものがいい。平凡な素材を使って非凡な結果を生み出すことが大事だ」と。それと同じですね。ただそれを現代に活かすときに、大高さんも悩んだと思うんです。形だけまねても駄目で、そこでどうすれば良いのか。

内藤 そうですね。最初に言ったアルミの瓦棒なんて、大高さんは現代の技術を使って造りたいと思ったんだろうね。だけど難しかった。同じ金属でも防水ですばらしいと思うのは鉛ですよ。サンピエトロ大聖堂の屋根のフラットな部分は鉛で被膜されている。しかし、現代はコストの問題だけでなく鉛中毒の危険性もあるので鉛は使えない。本当は金



内藤廣氏設計の島根県芸術文化センター (写真提供/内藤廣建築設計事務所)

属屋根屋さんが100年くらい保証できるような近代的な技術や素材を開発しないといけない。それが今はまだない。これだけ多雨地域で、海岸線も長くて、海からの塩害もある中で本当は日本独自の屋根の在り方を示すべきだと思う。そういうものがあつたら是非使いたい。いずれ中国大陸がマーケティングに入ってくるでしょう。日本発で優れたものがあれば、中国でも使える可能性がある。

松隈 屋根の意匠性についてはいかがですか。あくまで機能から導かれての屋根、ということですか。大高さんも内藤さんも、「一つ屋根の下」という造形に惹かれる、というところがあるように思うんですが。

内藤 僕は「イメージとしての屋根」というような話はしたことはなくて、「性能から割り出すこと」を常に意識してきました。でも、たしかに結果として屋根が招来するものがあるんですよ。それは誤解を招くかもしれないんですけど、ある種の「包まれてあるコミュニティの幻想」みたいなもの。それを良しとするかどうかですね。コミュニティって、モダニティーが壊そうとしてきたものだからね。そこでモダニズムの原理に背反することになる。

松隈 その場所を共有しているという安堵感。お寺の屋根がそうだけど、街の中にあると安定した風景として見えるというところは、やっぱり共同体の遺伝子ですかね。

内藤 それはすでに失われてしまったものに対するノスタルジーかもしれない。

松隈 大高さんについては、もしかすると、プレキャストとかいろんなことに挫折して、最後は屋根と外壁しか彼の中でこだわってよく拠り所がなくなったというある種のニヒリズムもあったかもしれないですね。

●もう一つの回路

内藤 不思議な人だよな、大高さんは。やっぱりなにか捨てきれないものがあつたんでしょうね。

松隈 それは前川さんに対する大高さんの批判にも出ていました。近代主義を突き詰めている前川の方法は違う、と。

内藤 しかし前川さんの後期の作品は、《熊本県立美術館》とか、本当に土に還っていくという感じがあるけど、大高さんは違うんだよね、回帰の仕方が。大高さんは、そこまでは行かない。ロマンチックなノスタルジーがまざるんじゃないかな、屋根にも。

松隈 前川さんは、いろいろな要素を捨てていった感じがします。どんどん純化していった。最後は壁で囲まれた空間と打ち込みタイルと庇があれば良いじゃないかって、どんどんポキャブラリーを減らしていく感じがするんです。でも大高さんは、最後までポキャブラリーの開発を続けていった。

内藤 大高さんには矛盾があるんですよ。性能を追い求めていくと、たとえばコンクリート打ち放しだって断熱材が入った方がいいに決まってるわけですよね。表面もタイルを貼るとかプロテクトしたほうがいい。そうなる、被覆せざるを得なくなる。つまり、どんどんフィクションになっていく。大高さんは建築家として捨てきれない良心のような部分があって、表現と性能の狭間ですごく苦しんだ人だと思う。ちょっと比喩的な話になるんだけど、現代音楽は非常に高度で精緻で理念的なものであり過ぎたために、みんな聴こうとしなくなった。近代建築もそれに似てる。ギドン・クレームルというバイオリニストがピアソラの曲を取り上げたアルバムに「現代音楽が辿ったのは別の、場合によってはノスタルジーを介してあらゆるものが結び合うような、そういう回路があるんじゃないか」と書いている。なぜピアソラの音楽が人を惹きつけるのかというと「それは、重層性だとか多重性だとか、そういうものだ」とも言ってる。それは建築にも当てはまる。モダニティーは重層的な繋がりをスパッと切って違うものをつくったけど、そうじゃないんじゃないか。僕はそんな思いがする。大高さんの仕事を見ると。

松隈 手放さずに重ねていく。

内藤 屋根の話もそこに繋がっていく。

松隈 それだけ大高さんの心情に分け入ってゆかれるということは、内藤さんにも同じよ



千葉県立美術館では、埋め立て地での建設を考慮し、軽量化を図るために屋根は鉄骨造の上に、ALC板、天然スレート葺きで施工



三春町歴史民俗資料館



片岡農業協同組合と玄関の床

うな傾向があるのかな(笑)。

内藤 ありますよ。ドテラ着るより、ヒートテック着る方がカッコいいに決まってるんだから。そこをどう抜けるかですね。特に成熟した社会で求められてる建築って、そこが苦しいんだと思いますよ。《三春町歴史民俗資料館》を見てもらうと思います。もっと直裁に訴えてくる表現って他にもあると思うんだけど、あの屋根がどうしてもデザインに見えちゃう。大高さんは本音では、もっと単純に無骨に作りた、と思ってたんじゃないかな。でも、三春のような寒いところで、人が集まるとなると、いろいろ着なければいけない。誠実に考えれば考えるほど、ドテラ着るみたいになっちゃうんだよね。これは現代の建築家みんなが抱えてる問題だと思う。一部のスノッパな人を相手に成立する建築もあるけれど、建築のことなんかにも知らない農家のおばあちゃんの側を向いたときには違う建築になる。大高さんは徹底して後者だったんじゃないかな。

松隈 大高さんは、独立前の《福島県教育会館》も独立後の《片岡農業協同組合》(2017年4月建て替えのため解体)もそうですが、ロビーの床を丸石を埋め込んだような荒々しい仕上げにしています。(写真右上)農家の人々が長靴はいて入ってくるような建物なんだから逞しい造形にしたいと考えてやっている。そういう生活に根ざしたりリズムみたいなものが大高さんの根っこにはある。ただその一方で、でも俺だってデザインするぞ、っていう思いもあるから……。

内藤 そうそう。欲もある。(笑)

松隈 その振れ幅が大高さんらしい(笑)。

内藤 その振れ幅が魅力だよ。

●建築と社会を結び

松隈 大高さんは、ニュータウン計画や町づくり、災害復興の地域計画と他の人がやらない領域へとどんどん越境していった。横断的に歩いていく彼の生き方みたいなものを内藤さんはどう思われますか？

内藤 建築家という枠組みに閉じこもらな

った人ですね。戦災復興で、みんなで東京を造っていかなきゃいけない、というような思いが大高さんの世代には強烈にあったと思うんですよ。終戦の年に大学の2年か3年でしょ。丹下さんが海上都市とか言っていると、都市とか土木とかの地味な作業に大高さんは目を瞑れなかった。だから横浜なんかずっとやり続けていた。大高さんは、土木も都市計画も建築も俯瞰的に見えていた人だと思う。だから頼られるし、頼られると委員会の委員かなにかにさせられてしまう。

松隈 内藤さんも似ていますね(笑)。

内藤 僕はそんなに誠実でもないし、大高さんほどの強靱な良心もないですから。(笑)

松隈 良心というより、社会的使命感。

内藤 いや、そんな立派なもんじゃない。とにかく建築、都市計画、土木と分かれてやっているのはよくないんだから、それを言うだけ。まずは建築家自身がもうちょっと努力して都市や土木を理解するようにしないとイケない。三陸の復興なんか大高さんだったらどうしただろうと、何回も思いました。

松隈 発言力も見ている領域の広さもね。ソーシャル・キャピタル＝社会的共通資本という視点で全てのものを見ていた人だと思います。建築が人々の生活環境を大元で支える社会的共通資本となるような道筋を自らの実践によって提示しつづけた。

内藤 僕思うんだけどね、東京とか名古屋とか大都市は過去をどんどん切り捨てて行かざるを得ない。そうすると、それ以外の場所。国土の8割から9割を占めている地方がどのくらい豊かになるか。そこにどのくらい良いコミュニティが生まれるかと言う話をこれからの土台にしてもいいのかなと思う。

松隈 大高さんもそう考えたと思いますよ。それが農協建築ですね。都市とは別の道をさぐっておかないとまずい、と。

内藤 そうですね。そういう危機感が大高さんにはあった。

松隈 それが故郷の福島県三春町の仕事につながっていく。内藤さんにとって大高さんの三春にあたる場所はというと。

内藤 益田ですね。ただ街造りまではいってませんが、10周年を迎えたんです。今や高校生の子たちにとって、あの建物が空間の原体験になってるんですよ。その体験を子ども達が語ってくれる。それがうれしい。日向市駅と街造りも20年になるけど、ずっとかわり続けています。地方の空気が変わりつつある気がします。中国建築大賞の審査委員長を8年前からやってるんですが、このところ実感として思うのは、地方の建物のほうが良くなってきているということ。それぞれ施主とのコミュニケーションもうまくいってるしね。都会だとわからないだろうけど、地方って人間関係がうまくいってないと厳しいからね。

松隈 建築家は地方で生きろ、って本を書いたらいいかもしれない。(笑)大高正人さんは「人間のための建築」が空間を構成するような都市の姿を思い描いていた。そこからどんどん離れてしまっている時代だからこそ、今、大高さんの存在をもう一度考えてみる必要があるのだと思います。今日は貴重なお話をありがとうございました。(2016年12月12日、内藤廣建築設計事務所にて収録)

■三春が生んだ建築家 大高正人(仮)

会期：2017年4月8日(土)～6月18日(日)
会場：三春町歴史民俗資料館・自由民権記念館
(福島県田村郡三春町字桜谷5)
開館時間：9:00～16:30(入館は16:00まで)
会期中の休館日：5/8・15・22・29、6/5・12

対談者略歴

●内藤 廣(ないう ひろし)

1950年生まれ。76年早稲田大学大学院修士課程修了。フェルナンド・イゲラス建築設計事務所(スペイン・マドリッド)、菊竹清訓建築設計事務所を経て、81年内藤廣建築設計事務所を設立。2001～11年東京大学大学院にて、教授・副学長を歴任。11年～同大学名誉教授。主な建築作品に、海の博物館、安曇野ひろ美術館、牧野富太郎記念館、島根芸術文化センター、日向市駅、安曇野市庁舎、静岡県草薙総合運動場体育館。近著に『内藤廣の建築 素形から素景へ1・2』『場のちから』などがある。

●松隈 洋(まつくま ひろし)

1957年生まれ。80年京都大学工学部建築学科卒業。前川國男建築設計事務所に入所。2008年より京都工芸繊維大学教授。博士(工学)。専門は近代建築史、建築設計論。13年5月よりDOCOMOMO Japan代表。05～06年「生誕100年・前川國男建築展」実行委員会事務局長を務める。主な著書に『ルイス・カーンー構築への意志』『残すべき建築』『近代建築を記憶する』『坂倉準三とはだれか』『建築の前夜ー前川國男論』『ル・コルビュジェから遠く離れて』『モダニズム建築紀行』文化庁国立近代建築資料館運営委員。

ふるさと
建築
探訪

遙か東京湾を見下ろす“ぶどうの館”

登録有形文化財 旧神谷伝兵衛稲毛別荘



洋館を守るように覆うのは建築当時からともに生きる松の老木。地下室があり、ワインセラーとして使われた

JR 稲毛駅を降り、東京湾を目指して15分ほど歩くと、千葉と東京を結ぶ国道14号線に出る。昭和30～40年代に一帯が埋め立てられるまで、この国道が海岸線であった。明治の実業家、神谷伝兵衛の別荘は、かつての波打ち際の少し高台に佇む。

10代の頃、葡萄酒を飲んで病から快復した経験のある神谷は、自らの生涯をワイン醸造に捧げた。明治13年(1880年)、浅草「神谷パー」の前身となる「みかはや銘酒店」を成功させると、明治36年(1903年)には茨城県牛久に日本初となる本格的なワイン醸造所「シャトー神谷」を創設。やがて「日本のワイン王」と呼ばれた神谷が、晩年の療養先に求めたのが稲毛だった。

明治21年(1888年)、千葉県初の海水浴場が開かれた稲毛海岸。医師の指導による海水温浴場や遊技場からなる「稲毛海気療養所」が開設されると、松林のなかの“エンターテインメント施設”は大いに賑わったという。大正10年(1921年)には国鉄に加え、京成電鉄(千葉一船橋間)が開通。東京から近距離の稲毛海岸は一大保養地となっていた。

いまや3km先となった稲毛の海岸も当時は別荘の眼下。寛ぎの場として使われ、現在、建物正面に位置するピロティにも、波の音、潮の薫りが届いたことだろう。母屋として使われた木造の和館の姿はすでないが、ゲストハウスだった洋館は現存。大正7年(1918年)築にして鉄筋コンクリート造。全国的に見ても希である。5年後の関東大震災にも耐えたというから、神谷の先見の明は高いに限ったものではなかったようだ。

1階はいかにも洋館らしい造り。しかし別荘の見所の多くは2階の和室に散見される。床柱にぶどうの巨木を用い、煤竹で二重に組み上げられた格天井を持つ10畳あまりの和室は、まさしくぶどう棚を連想させる。欄間など意匠のひとつひとつにまでこだわりを見せた神谷だが、彼が稲毛で週末を過ごせたのはわずか3年足らず。大正11年(1922年)、逝去。66歳であった。

残念ながら、“ぶどうの館”の設計者の名前や建築に関する資料は一切残っていない。しかし、ここには神谷が愛したワインへのオマージュが、確かに息づいている。



本格的な書院造りの2階和室を広縁が囲む



2階にある船舶風の窓。当時は海が一望



広縁の欄間にぶどう蔓 付け書院の欄間に透かし彫り



玄関ホールにもぶどうのレリーフが

旧神谷伝兵衛稲毛別荘

●千葉県千葉市稲毛区稲毛 1-8-35

●TEL / 043・248・8723

(千葉市民ギャラリー・いなげ)

●休館日 / 月曜日 (祝日の場合は翌平日)、
年末年始

●開館時間 / 9:00 ~ 17:15

●入館料 / 無料

編集後記

■広大な函館の総合車両基地を俯瞰できるスポットをご紹介します。北斗市の《きじびき高原キャンプ場》にある展望台。車利用になりますが、絶景です。車両基地だけでなく、天気の良い日は大沼の駒ヶ岳や函館山も見渡せます。

■対談でご紹介した大高正人のエピソードをひとつ。かつて建築評論家の川添登氏を川岸に立つ大きな木の下に連れて行って「僕はこんな木みたいな建築を造りたいんです」と言われたとか。《人間のための建築》を求め続けた一生でした。

■三晃金属工業株式会社 ■ 営業総括部 / 〒108-0023 東京都港区芝浦4-13-23 MS芝浦ビル11F TEL.03-5446-5603
東京支店 / ☎03-5446-5610 横浜支店 / ☎045-681-1235 名古屋支店 / ☎052-385-4562 大阪支店 / ☎06-6444-9011
中国支店 / ☎082-264-7881 九州支店 / ☎092-441-3551 北海道支店 / ☎011-726-3551 東北支店 / ☎022-217-6680